

温古知新²⁸ 南総里見八犬伝 9 1

笑顔礼讃西東

爽樹俳句会様 (埼玉県・富士見市) 2 3

赤鳥会様 (東京都・新宿区) 3 4

中川肇様 (東京都・国分寺市) 5

投稿作品 6 10

心に残った作品 10 11

新潟ぶらり / 日本海タワー 11

詠み人スクランブル (今、特に気に入っている食べ物?) 12 13

お客様の「リレーエッセイ」 河野静子様 14

ニユースあれこれ 15

詠み人の「リレーエッセイ」 歌人樋口智子様 16

6

June
Vol.74

*
「喜怒哀楽」は、
文芸を楽しむ方々の
活力の源を目指し
(株)ミュージック・コーポレーション
喜怒哀楽書房が
隔月発行している
情報誌です。

喜怒哀楽
詠み人応援マガジン

詩歌俳柳壇ニユース

友楽

温古知新²⁸

「南総里見八犬伝」9

関東管領との戦いに突入する八犬士たち。物語はクライマックスを迎えます。

八犬士への怨みと里見家への恐れから、扇谷定正は、同様に里見家の拡張を快く思わない山内顕定や許我成氏と里見家討伐を決意します。しかし、間諜から報告を聞いた里見家は、毛野を軍師として戦の準備を始めたのでした。

一方、大角は占い師に身をやつして武蔵国に入り、定正らに「海路、洲崎を攻めるのが一番」と伝えます。定正はこの助言通り水軍を率い、顕定は陸軍を率いて戦うことになりました。

犬川莊助と犬田小文吾は、管領方の今井柵、妙見島柵を破り、上杉朝良、千葉自胤の軍を迎えうちまいます。

管領方は最強の猛者を小文吾に打ち倒されたため敗退、里見方が勝利しました。

山内顕定、許我成氏は新兵器、駢馬三連車を投入、里見方の陣を包囲しましたが、犬塚信乃の活躍で敗退します。

三浦沖から一気に洲崎に渡す扇谷定正率いる管領方水軍。しかし、大法師の法力で敗退。毛野は管領方の主城・五十子城を制圧、道節は忍岡城を押さえました。

一方、管領方の使者として三浦の城にやつてきた大角は城を落とします。その後、三浦半島を支配下に置いたのでした。

定正は武蔵国河鯉に逃れ、顕定は上野国沼田に逃れて城に籠もります。許我成氏等、他の諸将は里見方の捕虜となりました。

京都の將軍家は戦の原因を探らせましたが、関東管領方に非があることを知り、定正らを譴責。里見と管領方を和睦させます。里見家は諸将を各城に帰しますが、この時、信乃は成氏に村雨を献上、父子三代の宿願を遂げたのでした。八犬士は里見義成の八人の娘をそれぞれ妻として城を賜り、里見家の重臣となります。また、大法師は富山の伏姫の祠に籠もったのでした。そして十五年…。

ある日、八犬士の体の痣と珠の文字が消えます。山から降りてきた、大は珠の返還を要求し、八つの珠を安房の四隅に納めて守護としました。

やがて犬士たちは退隠して富山に籠もり、二世八犬士が山を訪れた時、「退くべき時に退くのも大切」と言い残して消えてしまいました。二世八犬士は里見家を辞し、里見家には内乱が。そして十世、里見忠義の時、里見家は滅びたのでした。(完)

里見家の滅亡で幕を閉じた「八犬伝」。この後の「あとがき」で、参考史料や里見氏の史実や安房の地理の解説、著者の失明の事実が明かされています。(古川久美子)

爽樹俳句会

26年度研修旅行

代表 小山徳夫様

(埼玉県・富士見市)

4月23・24日、設立4年目を迎えた爽樹俳句会の研修旅行が新潟は魚沼地方で行われ、一日目に随行させていただきました。前日の大雨から一転、快晴に恵まれた3回目の研修会、1、2回目とも天候に恵まれていたというから皆さまの日頃のご精進ぶりがかがわれます。

「石打・魚野の里」で、魚沼産コシヒカリ食べ放題というサービス付きの昼食をとった後は、雲洞庵、鈴木牧之記念館、関興寺と巡る。昼食をとりながらも箸袋を短冊代わりに句を書きつける方、「いや〜安全パイで『花冷えや』で作ってきたけど、こんないい天気なら出せないね(笑)」。「雪も桜も入れたら季重なりになるし」と、方々から楽しい、でも意気込みを感じさせる会話が聞こえてくる。



▲歩くだけで功德があると言われる「雲洞庵」参道の石畳



▲「雲洞庵」で小さな草鞋のついた絵馬を買い求める山田さん



▲目配り気配り、さすがの企画運営 環さん

数年前の大河ドラマ「天地人」の主人公、与六(のちの直江兼続)と喜平次(のちの上杉景勝)が少年期に学んだ地として話題になった雲洞庵。参道には法華経を一字一石ずつ記した経石が敷きつめられていることから、「雲洞庵の土踏んだか」と言われ、万福多幸の御利益に預かる名刹として信仰されている。皆さん、そこかしこでメモをとる。これだけ一所懸命なのだから、きつと御利益があるはず!

そして、ご夫婦で一緒に来たかったが、足を悪くして断念したという奥さまのために、足腰健全をお祈りする山田さん。永年、一緒にいるご夫婦の姿を想い、しみじみと見てしまふ。

移動のバスの中をはじめ、イベント事なら順子ママこと環さんにおいて他にいない。仕切りっぷり、話の内容、盛り上げ方等、プロはだしでほればれする。

代表作『北越雪譜』をはじめとする多くの文献・資料を展示し、雪国越後の文化を伝える「鈴木牧之記念館」

▼旧三国街道塩沢宿「牧之通り」で



を見学した後、現在は「牧之通り」と命名され雁木造りが再現された商店街を散策。酒屋さんでは「もう少し利き酒しないと、句がでないなあ」と、探究心旺盛な面々。「関興寺の味噌なめたか」の言葉が有名な、「関興寺」で味噌をなめ、夕方、今日のお宿湯沢グランドホテルへ。

部屋には入らず、即句会。今日の吟行句5句(うち席題「山河」1句)出句の5句選、38人x5句なので、合計152句と大変な句数。さて、いよいよ本番、句会スタート。代表の小山さんより「好天と素晴らしい景色と仲間にも恵まれ、本当にいい一日を過ごせた。主宰のいない俳句会として将来が危ぶまれる声もあったが、皆さんのご努力で順調にきている。この後は宴会もあるし、明日も楽しく愉快にやっています。ましよう」とご挨拶があり、披露が始まる。

◎高得点句より
参道の一字一石風光る
山ひだに心のひだに別れ雪
燕来て越の山河を目覚めさす
残雪や越に誉れの酒・山河
水張りを待つ米どころはだれ雪

川口
吉田
小林
一瀬
荒川

北国の春嶺いまだ威を解かず
鳥雲に入りて山河をひろげたり
山河いま名残りの雪をまとひをり
禅林の花頭窓より木の芽風
小流れに春の水音禪の寺
まほろばの禅林浄土春惜しむ
味噌をなめ酒なめ越の花の昼
禅林の池に白帆あげ水芭蕉
竜天に登り十方石の籠
見台にしのぶ薫陶春障子
残雪の嶺々黒塗りの宿場町
惜春や方丈の間の「夢」一字
遠山を四方に据えて鯉のぼり

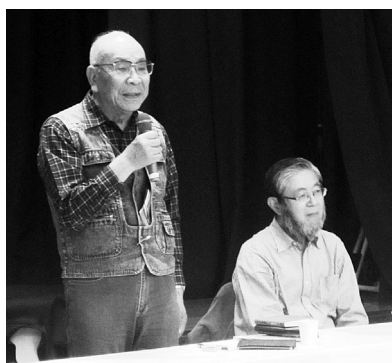
上田
川口
橋本
村田
小峰
半田
花島
半田
環
一瀬
坂本
阿部
橋本

続いて、川口編集長、小山代表、そして不肖木戸がゲスト選者として天人3句を選ぶ。
*川口選

天残雪の山河を胸にたたみけり
地さくらさくら山河ゆつくり越えゆ
かむ
人帰り来し山河や田螺鳴きをりて

吉田
内藤
神原

天の句、どなたも採られなかったが「山河」という難しい季語をうまく使っ



▲小山代表(左)と川口編集長

て感心した。ちなみに席題「山河」を出題した責任で、全て「山河」で採らせていただいた(笑)。地の句、やわらかい感じがして内藤さんの人柄が出ている。人の句「田螺鳴きをりて」という季語は、なかなかでてこない。情緒たっぷり詠った。

★小山選

天 法華経の慈悲の参道花盛り 齋藤
地 燕来て越の山河を目覚めさす 小林

人 見台にしのお薫陶春障子 一瀬

天の句、「慈悲の参道」と一般にも通じる形で詠まれ、そこに「花盛り」。今日の吟行句として非常にすばらしい。地の句、燕の飛来をとらえ「越の山河」として席題をうまく使った。人の句、雲洞庵に兼統と景勝と先生の3つの見台があったが「薫陶」がいい。

★木戸選

天 参道の一字一石風光る 川口
地 桜咲く雲洞庵の土踏んだ 齋藤
人 北国の春嶺いまだ威を解かず 上田
天の句、これだけの言葉で、禅寺の

美しさと厳肅さを格調高く表現している。地の句、俳句は挨拶。「雲洞庵の土踏んだか」に対し、踏んだよという力強い呼心。これからのみなさんの幸を約する、今日を象徴するよな句。人の句、春爛漫の越後だが、遠くを望めば他を



寄せ付けないような厳しさを持つ山々、そこに目をつけられた。

受賞者には越後の地酒「鶴齢」が贈られ、もう一つの本番の宴会へと。その後も、二次会へ行く方あり、また部屋で句会をされる方ありと、初日の夜は更け翌二日目へと続くのでした。

★見て、感じて、考えて、書いて、詠って、話して、食べて、飲んで、歌って、大いに笑ってと、記事にできない番外編もあつて(?)部外者ながら本当に楽しい一日だった。会員数も増え、この研修旅行も会を重ねる毎に参加者が増えているというのもうなずける。真剣に学んで遊んで、常に一所に懸命な皆さんの姿勢に、人生礼讃と拍手を送りつつ、魚沼路を後にしました。(木戸敦子)

赤鳥会

代表 松嶋光秋様
(東京都・新宿区)

桜満開の4月5日(土)、神楽坂の「モナコ」で行われた赤鳥句会にお邪魔しました。昼下がりの喫茶店にふらりといった様子で参集した11名の方々。152回を数える今回は、当季雑詠5句提出の10句選(うち1句特選)。欠席投句を含む、合計60句より互選します。



▲グレース・ケリーが好きな店主が「モナコ」と命名

投句が終わる選句用原稿のコピーをとる間に、和田澄子さんによる「俳句ワンポイントレッスン 第二講」が行われ、有効に時間が使われる。披露のあとは、各人が特選で採った句について講評するとともに、点盛りがされる。



▲穏やかでお優しい代表の松嶋さん

絵筆持ち先づ紫か水温む 山口
とても春らしい素敵な句で、優雅な生活をしているなあとうらやましい気持ちでいただいた(笑)。

花冷やまとめて洗ふ箸の音 小高

二句一章の句。「まとめて洗ふ箸の音」がおもしろい。花冷やがピンとこない感じもするが、花見の宴の後に洗っている箸の音なのかもしれない。こいうふううに、きれいにまとめられると、春の寒さもどこか吹き飛ばす感じがする。

勝ち負けは遠き日のこと石鹼玉 小高
まさに、参りましたという感じの句。

山桜さきたいときに咲いてゐる 中川
まさにその通り。春が終わろうとしている時でも咲く山桜もあり、こいうふううに生きたい。

老木の若さあふれる桜かな 林
幹を見ると老木なのに、花だけ見るとすばらしい活力を見せている。年老いても、桜の咲く時期になるとこれだけの華やかさ。自分も老木だから、うらやましくもあり、こうありたいなど。



▲月刊「赤鳥」第19号

桜咲く一と日一と日を惜しむごと松嶋
外堀通りに住んでいるので散歩しながら桜を眺めるが、まだまだ蕾であっても、2、3輪咲きだすと、どの木も同じように咲き始める／毎日毎日、少しづつ咲いていく桜の状態がよくわかる句／うちの前に公園があり毎日見ているが、本当にこの通り。

あの頃は桜吹雪に両手上げ

林

今はそんなことはないが、幼い頃の心情を懐かしんでいて、とても好きな句。

春塵や鳶職の大声足場より

和田

街を歩いていると、解体なのか竣工なのかビル工事をしているところによく出くわす。大声でしゃべっている情景が目当たりに見えるような句で、都会の今の様子が垣間見える。

山口白軒さんからの講評

季重なりの句や、説明調になり無駄な言葉が入っている句が何点かあるのが気になった。俳句は詩、散文的にあまり説明をしないこと。例えば、

草餅は父の好物彼岸入り

河野

情景がよくわかるだけに、季重な



▲プロの画家でもある山口さん

りで惜しい句。推敲をしつかりと。墨堤の人にも酔ひし花見かな 古谷
これも情景は非常にいいが、説明調にならないよう「も」はとった方がいい。つばくらやぶらり銀座の帽子店 古谷
これは5点入り人気のあつた句だが、「や」が強すぎて帽子店とのつながりが悪い気がする。「つばくらめ」でいいのでは。

◆松嶋光秋さんより

春宵を遺墨集みて過ぎにけり

矢野

春の宵に、どなたかの遺墨集を見て過ごしたという何でもないような句だが、春の宵という季語をいかななくつかんでいて、うまいなあ。亡くなった人と、その作品とを想い、春のしみじみした感慨が出ていると感心した。私もこのような句をつくりたい。この句を本日「光秋賞」とします。

朝ざくら素顔のきみに逢ひに行く 中川

昼や夜の桜は少しつかれて朝の朝の桜は、化粧をするとかしないとかではなく素の状態。そのままのその人に会いに行くということ、「朝ざくら」がすばらしい。この句を、「第二回桜花俳句賞」といたします。桜花俳句賞ですからね、走らなさいけませんよ(笑)。
女性陣：素顔は見られたくないーほん(笑)。

特選としては採られなかったが、

春うらら今日は私の誕生日

永山

は、自分の誕生日を「春うらら」と詠む素直さがすばらしい。それが、永



▲大活躍の小高さん(左)と昨年俳句を始められた89歳の永山さん(右)

山さんの句と聞いて、より感慨深い。松嶋：3月に誕生日ということもあり、永山さんにはこの短冊を贈ります。

昨年、88歳から俳句を始められたわけですが、毎回どんどんうまくなっています。
永山：3月で89歳になりました。このようなものをいただき本当にうれしくて…(と涙ながらにご挨拶)。

これも特選ではなかったが、

月おぼる武士の住ひし矢来町

小高

矢来町は新宿区の町名。昔の大名屋敷で、若狭小浜藩主・酒井讃岐守忠勝が三代將軍家光から牛込に下屋敷をもらい周囲の土手を竹矢来で囲んでいたために、この町名となったとか。新宿御苑や後樂園のように残ることなく、酒井家のお屋敷は今や全て人家になつてしまふ残念だが、その歴史をしっかりとりとらえている句。

◎天 8点

夜桜や下戸を詫びつつ車座へ

大野

◎地 7点

桜咲く一と日一と日を惜しむごと

松嶋

◎人 5点

勝ち負けは遠き日のこと石鱈玉
そよ風にうなづき合へり黄水仙

小高
和田



▲続ける力、挑戦する勇気を感じた「赤鳥会」の皆さま

月おぼる武士の住ひし矢来町 小高
他、高得点句
念入りに菩薩洗ひぬ花の昼
安曇野の水車軽やか猫柳
草餅をめあての古き友が来る
結願や浄めて納む遍路杖
桜咲き車椅子での老人会
水の面へ枝差し伸ばす花明り
貝の口ひらく汀や春の波
傘窄めば彼岸桜の紅ごぼれ
★8年前の本紙面で一度ご登場いただいた「赤鳥会」。それ以前よりずっと研鑽を積んでいる方々、当時の記事を見て入会した古谷さんは、86歳とは思えない若々しさでびつくり。89歳の永山さんしかり、始めたいと思つたらまず飛び込んでみるというチャレンジ精神に脱帽。それぞれに、書に絵に琴に写真にと、プロないしはプロ級の腕前。始めなければ始まらない。そして、今日が一番若い日、という言葉をもっと実感させられる会なのでした。(木戸敦子)

『中川肇句集』
中川肇様

(東京都・国分寺市)

喜寿を迎える五月、第二句集『中川肇句集』を上梓した中川肇さん。ご自身の『或るギャラリー』で、お話をうかがいました。

■第二句集出版のきっかけとテーマは？

第一句集出版から7年経ち、そろそろ、と思った。今回は形から入りました。第一句集のとき作った函(本のケース)が600個近く余っていたから、それを使おうと。本文用紙を決め、総ページを決め、句数を決め…と外側から作っていくことにして、木戸さんをびつくりさせた。出来上がったときはほっとしたね。いい函だったから、活かせて嬉しい。「第一句集に似てますね!」と言われたけど、同じもの(笑)。収録した句は、句会に出す実験句とはちがつて、自分が残したい句。句集は自分史と同じ。だからちよつと変かもわからないけど、あとがきを入れ



▲うまくなくても、表現のなかに発見がある句がいい、と話す中川さん。

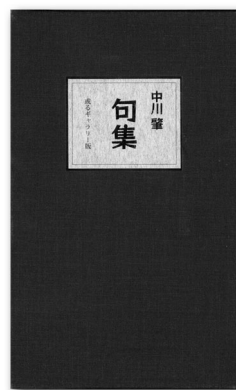
ないで、詞書をいっぱいつけて、略歴を巻末につけた。

テーマはもともと何もなく(強いて言えば最初から生と死)、母が長寿で他界したから、それは当然中心になった。第一句集は父に捧げるものだったし、次に作るのなら女房かな。

■第一句集のタイトルは『中川肇一行詩集』。発行されている詩誌『宙』では俳句と詩と一緒に掲載されています。「詩と俳句の二刀流ですか」ときかれることもありますが、詩も俳句も同じ「詩」だと思っている。高校の頃はとにかく「表現」に憧れて、ジャンルにとらわれず短歌や詩や俳句をいろんなところに投稿した。そこでいちばん引かれたのが詩。退職して俳句を本格的に始めるようになり、俳句も詩だ、詩でなければと強く思った。それで詩人にも俳句を書かせたいと「短詩の試み」という同人誌になり(今は個人誌)、「宙」という名前で発行している。

■本が本がお好きなのだと感じます。物心ついたときから、本をつくる仕事に就こうと思っていた。忘れられないのは、六年生のときに買った佐藤紅緑の『一直線』。もらった小遣いを減らさないよう、本屋さんへの八キロの道のりをバスを使わずに歩いて行った。それが、帰りに縁日を見てたら、小脇に抱えてた本がなくなっていた。血眼になって探したけど、なかった。あれは強烈な思い出。

■一言でいうと、本はどういう存在ですか。
生涯の恋人。一病息災の「一病」みたいなもの。内容より、本そのものが



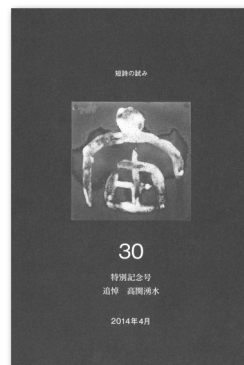
▲造本の意図は、シンプルで粋。

好き。本に埋まって死ぬだろうね。

■ギャラリーの名前である「或る」に込められた意味を教えてくださいませんか。
「或る」はもともと「ある」。22歳のとき詩誌「時間」の同人4人で「ある」という同人誌を始めた。「ある」とは「在る」存在(この意識がいちばん強かった)、そして「アール」(芸術)、そして「或る」。よくばつて三つの意味を込めた。同人誌は3年ほどで終わったが、その後、まど・みちお先生と知り合い、先生にも書いていただき始めたのが「或る」。「或る一つの」というつましい感じを込めた。そして会社を卒業と同時に始めたギャラリーの名にした。

■書き続けたり、表現したりする「原動力」は？
生きた証を残したいという、やむにやまれぬもの。それがたまたま、わずかな才能にすぎなくて、書くという行為になっている。父は必然的に絵だったが、ぼくはたまたま言葉。だから本が好きなんだらうね。あとは、人が好きなんだね。人たらしなんだと思う。

■これからは？
野菜の花の本の出版を考えている。大好きな野菜、その花が意外に美しいことに気づき、撮りためるようになって



▲詩誌「宙」。人は死んだら宇宙の塵になるという意識が強くて、「宙(そら)」。

たことがきっかけ。次回も元気で出版したいなあ。

春の水おぼれていいと思ひけり
母がなほ小遣くれる木の葉髪
稚拾ふつくづくおれは老童子
しやぼん玉日記に書けぬ息を込め
生涯をうべなふことし大夕焼

(『中川肇句集』より抜粋)

★「何回出しても句集名は中川肇句集。それでいいと思うんだよね。父に捧げたり、母に捧げたりというのはあるけど、根っこにあるのは、自分」。ギャラリーをもち、詩誌を発行し、写真を撮り——と自身の「表現」に休みがない。周りに「大人気ない」といわれるほど率直、それなのに不思議と悪感情を抱かせない。常に受け容れる度量と愛情があるからなのだろう。人と語り、呑むことを心から楽しむ中川さんの周りには、人が集まってくる。「花の嫌いな人っている?いないでしょう。みんな好きなんですよ結局。人間も花なんです」と話す中川さんの原稿は、いつも分かりやすく、何よりその文字がやさしい。(菅真理子)

投稿作品

※誌面の都合上、投稿作品の掲載は先着300名様までとさせていただきます。何卒ご了承ください。しめぎり 2014年7月15日(火)まで
※作品は原稿どおりに掲載しております。

短歌

- 1 羽撃き後水つかみたつ白鳥の朝の光
をしたたらせつつ 黒澤正行(福島県)
- 2 櫻花舞ひゆく先はランドセルピッカ
ピッカの一年生に 清水英雄(東京都)
- 3 物あまた有すぎて来し終活も断捨離
も今耳にたこなり 高須孝(愛知県)
- 4 (職業に貴賤あらず)のよみがえる除
染の作業する人をみよ
篠原三郎(静岡県)
- 5 業とさがそれと生き物の本能による
ものか川面におちる雨の粒のひとつひ
とつの数えて夜の池の水面にうつる星
の数ほど
梅澤鳳舞(埼玉県)
- 6 雛飾り恩師令嬢より贈らるる桃の節
句に縁なき我れに 今井忠一(東京都)
- 7 四島返せ心に浮かぶふるさととはS20
夏帰らざる海 早坂紘司(北海道)
- 8 桃咲きて目白も鴨も遊びおり待ちい
る犬は空より帰らず
天野マズミ(愛知県)
- 9 店頭に独活の並べば逝きし友の栽培
ハウスのぬくもり想う
桑原謙一(群馬県)
- 10 思い出の十三詣母も兄も我も渡月橋
振り向かざりし
居原田連星(大阪府)

- 11 桜散るわびしき公園春はゆく折ふし
風に花吹雪して 工代康子(香川県)
- 12 遅き母待つ子は窓にの字書く保育
所内に独りとなりて
青木日出男(群馬県)
- 13 少女等のテニス打つ音が花散らすおほ
ろ見ゆ空雲雀囀り
濱田深雪(新潟県)
- 14 終の日を迎える準備始めるも測りか
ねては迷う手を置く
寒川靖子(香川県)
- 15 葉ざくらをめでて帰りは遠まわり枝
垂れ櫻に来春も来る
佐伯セツ子(香川県)
- 16 春の光り浴びつ、桃見会ひとり笑え
ばみな笑うなり 土屋喜雄(山梨県)
- 17 芽ぶく木の枝を飛び交ひよどりの
声高くしてひたに鳴き合う
緑川葉子(福島県)
- 18 散りてこそ桜と言ふや夕暮を薄きく
なる掌にのる 渡邊美枝子(山梨県)
- 19 犬と棲み君は湯舟に倒れ居り知るは
犬のみ五日も過ぎて
野木宗信(奈良県)
- 20 農耕の鋤を休めて手を振れば汽車は
お礼の笛をならしぬ
藤原昭三(滋賀県)
- 21 近づきて音去り行きぬ救急車集落百
戸は皆無事らしき
下山信行(群馬県)
- 22 ニートンに終の一滴委ねたり手揉み
狭山茶香りのしむ
大竹憲弥(新潟県)
- 23 古き地図見れば懐かし現在と異なる
駅の名当時を偲ぶ
濱田イサオ(福岡県)
- 24 頂きし純米酒飲む冬の夜独り居なれ
ばほどほどにする 小暮昭司(群馬県)

- 25 それ以上言わぬが花とウインクしば
あばと孫の小さなひみつ
小笠原紗恵子(神奈川県)
- 26 老を生きることの切なさ溢れる迷
子無線の今日も鳴る街
村山徳英(埼玉県)
- 27 おだやかに天気が持ちて堀の桜四〇
〇年を寿ぐが如
高橋登志子(新潟県)
- 28 五本の指持つ手のひらはそれなりに
役を果たして命をつなぐ
林玉子(長野県)
- 29 若鳥の巣立ちしあとの静けさに過ご
せし日々の温もり想う
北澤実夫(東京都)
- 30 春の日は二次関数を解く気分放物線
はきしみ時に微笑む
濱崎祥子(鹿児島県)
- 31 一歩ずつ八十路を行かむ鳴り止まぬ
ウインナ・ワルトと独りのわたし
萬濃その子(神奈川県)
- 32 七十余年経たりともなし『あやとり』
に親指小指自在に動く
白川笑子(大阪府)
- 33 昨秋に土手に並べて捨てられし薫り
水仙今競い咲く 田中豊恵(新潟県)
- 34 窯垣の拓本とりしグループと二期一
会の会話楽しむ 出井静枝(三重県)
- 35 人生の後期高齢期を迎へ諾ひてある
「(褒美の時)」 西山悌三郎(高知県)
- 36 信濃路の畦道踏めばフカフカと足に
優しく春到来
音喜多千津子(埼玉県)
- 37 促され火葬ボタンを押す義兄の指が
ためらう姑との別れ
冷水發子(千葉県)
- 38 人の世の取り持つ縁花紀行道灌に見
せし山吹の里 神野弘(岡山県)

川柳

- 39 沖繩の負担軽減口実に日本各地にオス
プレとばす 野中よしみ(神奈川県)
- 40 藤の花眺めつつそのみことさに夫の手
入れの上手さに感動す
田中迪子(東京都)
- 41 ランドセル背にゆらしして一年生喜
びカタコト孫を見送る
大鳥居牧子(東京都)
- 42 電線に区切らるる空を仰ぎ見る物悲
しさを耐へむまひるま
小俣はる江(山梨県)
- 43 見あぐれば鳶の親子は鳴き交はし輪
を描きつつ青空に舞ふ
白石政江(群馬県)
- 44 政治家の遺憾連発イカンです
橋本世紀男(東京都)
- 45 父と母補聴器外し怒鳴りっこ
細川光子(栃木県)
- 46 折り鶴の温もり掌の上に乗せる
大森一甲(兵庫県)
- 47 身の丈という物差しをすぐ忘れ
石原岳(群馬県)
- 48 「サイエンス」泪の頬もあるかしら
安木沢修風(新潟県)
- 49 お若いと言われ返事を言い忘れ
鈴木義雄(福島県)
- 50 オブライト秘密をこぼしては困る
小西忠夫(鳥取県)
- 51 大切な仲間になると信じた
藤井碩子(山口県)
- 52 本片手あくびする俺妻横目
植松與悦(山形県)
- 53 肩書をみんなが捨てたい仲間
守屋高雄(岩手県)
- 54 発想の夢が膨らむ玩具箱
木野光子(岡山県)

- 55 懲らしめてやりたいこれは恋かしら
丸山芳夫(東京都)
- 56 散歩する野道に土筆こんにちわ
大江秋月(兵庫県)
- 57 百歳を越えたお通夜が騒がしい
竹村穂夫(大阪府)
- 58 芸術のかたちになつてゆく粘土
安田翔光(香川県)
- 59 つぶやいてみる空からお金降つて来い
井上美恵子(愛媛県)
- 60 仏にも俺にも同じ朝が来る
久本にい地(岡山県)
- 61 恋文に二円不足と付箋つき
土谷敏雄(秋田県)
- 62 ちどりに足妻をあざむく忍び足
関本守(新潟県)
- 63 桑の実やわれ永遠の少年となり
渡辺綱纒(宮崎県)
- 64 減税と思つていたが四月馬鹿
原崇雄(埼玉県)
- 65 それではと云つて玄関小半時
近藤富夫(東京都)
- 66 スマホ買いオールナイトで学習す
阿部澄江(宮城県)
- 67 フェラガモも僕の時計も同じ刻
山口千鶴子(東京都)
- 68 義理合いの個展の主の得意顔
奥田音野(香川県)
- 69 土の道歩いた足に杖がいる
大岩歌子(岡山県)
- 70 文字にない思い流れる母の文
小山恵美子(大阪府)
- 71 自慢してよいのは栗の木の敷居
奈倉楽甫(愛知県)
- 72 合格し年金が泣く脛かじり
諸橋文男(新潟県)
- 73 おもてなししても通じぬ人でした
近藤はつみ(福岡県)

- 74 良い知らせ一つで笑顔取り戻す
岡本恵(茨城県)
- 75 この道はケアハウスへのにしひがし
松尾健二(千葉県)
- 76 すぐ終る何かしないと落ちつかぬ
松田義登(福岡県)
- 77 新人が未知のゲームに挑む春
藤沢健二(千葉県)
- 78 シューズ増えかげで泣いてるハイヒー
山崎一嘉(愛媛県)
- 79 子供の絵マイホームにはプル付き
福地義雄(沖縄県)
- 80 筍が春が来たよとのぞき出る
高松秋良(群馬県)
- 81 花見酒羽目を外して地球抱き
中嶋秀次郎(埼玉県)
- 82 夏の宵おんな鎖骨を光らせて
石神紅雀(鹿児島県)
- 83 傍目には気楽に見える蝶の舞
木村誠一(神奈川県)
- 84 原発の末路を誰も語らない
高柳柳雲(愛知県)
- 85 弱る足浮きたつ心に水をさす
奥那於子(大阪府)
- 86 食べたくて無理に動かす利かない手
大橋絵代(千葉県)
- 87 生き様に序列があるか叙位叙勲
嶋田征次(東京都)
- 88 腹八分六分になつて老いて行き
増島淳隆(東京都)
- 89 二歳児の喜怒哀楽は分刻み
中林恵子(大阪府)
- 90 定位置に今日も座れる夕の膳
後藤すえひろ(福岡県)
- 91 ぬか漬で茶漬さらさらさつぱりと
森恒雄(愛知県)
- 92 消費税ゼロと喜ぶ夢の中
伊藤敬子(宮城県)

俳句

- 93 古稀迎え少し優しい花になり
宮川華余子(山梨県)
- 94 口紅を少し濃くする未亡人
戸田美佐緒(埼玉県)
- 95 亀鳴くやりハビリ病棟昼さがり
檜山とり子(東京都)
- 96 ご成婚五十五年目植樹祭
大橋恒次(新潟県)
- 97 春の夜彼に重なる影法師
松涛千鶴子(東京都)
- 98 孫の笑み無駄にはしない春疾風
松田重信(埼玉県)
- 99 和楽器に魅せらる春の音楽祭
柳澤京子(宮城県)
- 100 花の雨きのふの真史のステップよ
安部哲(新潟県)
- 101 春雨の造る真珠の小枝かな
水落重武(新潟県)
- 102 桃の花玻璃戸に映えるホスピタル
星野三興(新潟県)
- 103 桜満つ未完の画布を横抱きに
渡辺嘉幸(東京都)
- 104 菜の花や菩提寺の庭光をり
福田和子(東京都)
- 105 三毛猫は駆込み寺へ臆月
川口襄(埼玉県)
- 106 たんぽぽや磐梯カーの左右に映ゆ
大塚正路(福島県)
- 107 ときに雨ときに鶯老を啼く
清水勝子(神奈川県)
- 108 永き日やとなりの二階夕日さし
吉田律子(新潟県)
- 109 緑濃き母の墓苑に風光る
関原幸子(東京都)
- 110 晴ればれと終の栖に夏来る
大谷茂(埼玉県)

- 111 袖丈の長き詰襟新学期
三津木俊幸(千葉県)
- 112 散り敷きてなほ花惜しむ心かな
井原毬子(東京都)
- 113 三年の疑い晴れし蓬摘む
井上静夫(栃木県)
- 114 ナマケモノ、コアラ、パンダの三尺寝
関根千恵(埼玉県)
- 115 テノールに酔ひて桜の乾門
松尾らん(東京都)
- 116 床離れ白髪もひらめく春の風
野村牟人(東京都)
- 117 水無月や旅立つ妻は黄泉の国
内河邦久(東京都)
- 118 有限の刻をさざめる落花かな
竹田栄(東京都)
- 119 幹太し桜孫生え大雄姿
山田幸代(兵庫県)
- 120 和菓子屋に春前線の到達す
平野貴美(東京都)
- 121 梅雨寒や散歩の犬はカラ元気
島口健次(神奈川県)
- 122 春光の中にひろがるピアノ音
竹本芙美子(新潟県)
- 123 永き日の読みたき書あり図書館へ
阿部至(埼玉県)
- 124 意のままにならぬパソコン春秋う
大場きよし(宮城県)
- 125 咲き満ちてはためき止まぬ董かな
小形さだ(東京都)
- 126 磯開祢宜さん西田敏行似
吉里ひとみ(東京都)
- 127 般若湯交はず結願遍路宿
坂山陽康(滋賀県)
- 128 梅雨晴間母ポカンと佇めり
稲垣恵子(埼玉県)
- 129 斜陽受く人無き画廊紫木蓮
津田忠彦(岡山県)



- 130 彼岸会や姉妹共に老いにけり
副島加代子(宮城県)
- 131 刃物研ぎもののめの空試し切る
田島星景子(宮城県)
- 132 花冷や駿馬の息のゆたかなり
星井千恵子(埼玉県)
- 133 福島を逃がれし子らと蓬摘む
小野正光(宮城県)
- 134 昼下り爪先立ちで風邪防止
青木ケン子(埼玉県)
- 135 駅通り春告鳥に促がされ
忍正志(兵庫県)
- 136 犬は犬なりのイヤイヤ春つらら
二瓶邦枝(埼玉県)
- 137 春めくや庭の草木語りけり
藤田三四郎(群馬県)
- 138 大道芸投げ銭光り夏木立
佐瀬千恵(神奈川県)
- 139 彩雲の富士に懸りて春日濃し
渡邊碧海(静岡県)
- 140 奥鬼無里群生五十万水芭蕉
西條公雄(埼玉県)
- 141 庫裡裏の幼稚園から花ほこり
炭崎博(滋賀県)
- 142 彼岸雪幸せうすき姪の墓
阿部幸子(宮城県)
- 143 アトリエに春日隅々妻描く
加用章勝(千葉県)
- 144 虹消えて鍋底の墨濃さを増し
緑川禎男(埼玉県)
- 145 耳鳴りの軽い日綿虫のよく飛ぶ日
林克(福島県)
- 146 連翹や幼稚園児の列乱る
武市愛子(大阪府)
- 147 身の丈に見合ふ暮しや冷奴
田中昶(鳥取県)
- 148 つばくらめぶらり銀座の帽子店
古谷力(東京都)
- 149 耀きを風にまかせて花の舞
大内泰子(東京都)
- 150 燥ぐ子の夢は何色しやばん玉
堅田秀子(東京都)
- 151 身じろぎの出来ぬほど満ち八重桜
高崎登喜子(東京都)
- 152 おみやげは小さき手いっぱい花の種
井田由利子(宮城県)
- 153 表札に寓「隗」とあり桜散る
久保和友(滋賀県)
- 154 別れては浅瀬に遊び春の水
湯浅芳郎(岡山県)
- 155 落のたう一雨ごとの背丈かな
下坂池峰(秋田県)
- 156 おとなりも「出来ちゃった婚」山笑う
鈴木岑夫(千葉県)
- 157 丸ポスト歩いて五分若葉風
早矢仕邦夫(愛知県)
- 158 八十八夜昏きまなこの翁面
鈴木智子(千葉県)
- 159 目力が物言ふ男の子初節句
水川聖子(埼玉県)
- 160 冥福を祈りて谷戸に芹を摘む
長野光康(神奈川県)
- 161 城跡の風やり過し初蝶来
上村元義(神奈川県)
- 162 高校の野球素晴らし炎天下
樋口二葉(三重県)
- 163 カーネーション紅きは君の唇に似て
小井寒九郎(三重県)
- 164 おぼろ夜や狐狸の宴は山の中
津田吾燈人(高知県)
- 165 生け贄を追ふがに野火の焰かな
山田楽山(埼玉県)
- 166 麗かにひねもすゆるり過こしたき
増田公代(東京都)
- 167 と金とは成れぬ人生冷奴
阿部徳夫(宮城県)
- 168 買ひ替へるウォーキングシューズ風五月
小野寺裕子(宮城県)
- 169 露天湯に星を数えて遠蛙
山本直子(大阪府)
- 170 シミ一つ母の便りや春の雨
鮫島茂利(兵庫県)
- 171 青空に声置き忘れ揚雲雀
大西誠一(岐阜県)
- 172 天中に聞く囁りはどの辺り
大塚徳子(埼玉県)
- 173 しゃぼん玉今日は飛びたくない気分
紺谷睡花(東京都)
- 174 万物の命潤す春の雨
杉原明子(静岡県)
- 175 散り始むときの花見や六地蔵
小澤円梨(静岡県)
- 176 手鏡に春愁の顔しまひこむ
北村純一(神奈川県)
- 177 風薫る理髪店前五、六人
布目雅之(東京都)
- 178 脱原発溜息一つ夏がくる
日下温水(東京都)
- 179 零戦とB29と涅槃図と
岩村昇(神奈川県)
- 180 小次郎に今度は負けぬ初燕
寺内信(埼玉県)
- 181 節分や福の顔してクラス会
中村慶子(滋賀県)
- 182 物陰に咲いて清らかいぬふぐり
菅原茂子(宮城県)
- 183 春風に幟煽れる音の波
重原昇(新潟県)
- 184 耕人のほつと一息缶コーヒー
西口東治(大阪府)
- 185 思はざる電話の先方宵の春
有坂馨園(福島県)
- 186 初をまく天の筆あと農日記
清まさじ(静岡県)
- 187 遠目には麦踏み人の踊りぐせ
千代田俳徒(東京都)
- 188 黙深き記紀の山々つちふれる
澤雅子(大阪府)
- 189 山椒の芽噂話をするネズミ
白戸麻奈(東京都)
- 190 長州より筍六発着弾す
小島岳青(新潟県)
- 191 佇みてまた仰ぎ見る花の道
池本勇(奈良県)
- 192 夫婦げんか見ている猫は日向ぼこ
山崎吉晴(群馬県)
- 193 沖繩忌讓れぬものかこのかのも
福岡悟(東京都)
- 194 人去つて土手のベンチに散るさくら
古川正栄(千葉県)
- 195 紫の木蓮咲けり写真撮る
鈴木みえ(長野県)
- 196 名刹のやさしき炎牡丹の芽
片山茂子(埼玉県)
- 197 どぶ川の光りにも春深まれり
川崎洋吉(福岡県)
- 198 スープ冷めぬ距離に友出来春満月
有田裕子(北海道)
- 199 露味噌や飲ませておけば済む男
今井勝子(新潟県)
- 200 流れ星中の一つが亡夫なるや
金子範子(高知県)
- 201 行く春の木陰に坐りゐたりけり
河合ヤスエ(大阪府)
- 202 春一番弓なりに吹く九十九里
近藤薫也(千葉県)
- 203 極楽花を咲かせに朝寝かな
神作洸江(埼玉県)
- 204 蜂の巣を枝ごと取りて水盆に
宇田川正雄(埼玉県)
- 205 再びの曾良か杜国か花軍
椋本望生(大阪府)

- 206 更科や柚子の香紡ぐ喉の福
石尾曠師朗(東京都)
- 207 陰雪の屋根の長さに残りけり
平山千江(岩手県)
- 208 ふらごを志村喬になりて漕ぐ
羽根田明(神奈川県)
- 209 大物の伊佐木釣人Vサイン
油谷郷史(兵庫県)
- 210 佇めば匂ひ微かに朝桜
木村貞恵(静岡県)
- 211 冴返る美髯豊かに四天王
佐野和彦(静岡県)
- 212 竹林に足踏み入れば底に春
峯田まり子(奈良県)
- 213 踏まれても幸せ色の犬ふぐり
中嶋清子(佐賀県)
- 214 両脇にかたかこの花下山道
小林春雪(新潟県)
- 215 生きてゐる確かな証蚪蚪の紐
橋本良子(埼玉県)
- 216 古書店にさがす本なし春の夕
増本和子(大阪府)
- 217 入学子ひと寝入りしてはしやぎけり
中村康浩(福岡県)
- 218 ぼうたんや白磁の壺に溢れけり
山崎紀久江(福岡県)
- 219 一人ずつ渡る吊橋芽吹き山
津布久信雄(東京都)
- 220 人々のころにさくら散らしましょう
池田岬(埼玉県)
- 221 柿若葉一年生のなじむ頃
齊藤安弘(神奈川県)
- 222 洋館を飾るシヤクヤク婉然と
河越正行(神奈川県)
- 223 いもり観ている里山の少女かな
北野耕兵(千葉県)
- 224 神田川花筏分け鯉の顔
穂積光子(東京都)
- 225 花筏人それぞれの行方あり
長島保子(東京都)
- 226 肩膝に風が舞ひ上ぐ飛花落花
伊藤やゑ(東京都)
- 227 八重桜母の瞳の翳りなし
川嶋法子(東京都)
- 228 爽やかや手話の言葉を子は返す
中野勝子(鹿児島県)
- 229 一人居て包まれること桜花
若月理依子(新潟県)
- 230 おでん煮るいつくら煮ても煮えぬ愚痴
辻升人(東京都)
- 231 料峭の高野の夜の数珠の店
磯部力(新潟県)
- 232 風力計居眠りゆるす日永かな
林あみ子(群馬県)
- 233 そう急くなちよいと休めよ初つばめ
吉村充治(埼玉県)
- 234 子育ての千の風切るつばくらめ
松前邦広(千葉県)
- 235 満開の桜愛でをり車椅子
青木凉子(埼玉県)
- 236 花開き二人娘のかるき足
木下精(大阪府)
- 237 紫陽花や藍色の毬雨包む
山本理香(大阪府)
- 238 歌声に天道虫もサンバかな
塩崎須美子(神奈川県)
- 239 小走りに駅より急ぐ春の雨
駒場京子(神奈川県)
- 240 家族づれ乾杯はじけ桜下
杉村美保子(岩手県)
- 241 蘇る一筋の道春うらら
沢田稲花(山形県)
- 242 風光る孫の入園式の朝
針生清(千葉県)
- 243 被災の子等帰雁に大きく手を振りぬ
小山たけし(埼玉県)
- 244 職場での序列生きてる花見の座
長峰正晴(千葉県)
- 245 母の日よ側に妣ある心地せり
貝沼とし子(愛知県)
- 246 幽明のあはひに朝寝覚めやらす
山東爺(北海道)
- 247 鐘一打一打にひらり落花かな
中田文子(大阪府)
- 248 廃鶏を埋めしあたりか草茂る
落合敏子(北海道)
- 249 思い旧る希望に燃えし卯月かな
藤井春三(埼玉県)
- 250 雛飾る昭和ひとけた三姉妹
大久保アヤ子(東京都)
- 251 赤坂のつぎは乃木坂桜咲く
福山三智子(東京都)
- 252 炎天をにらみ返してまだ死ねぬ
鈴木蝶次(宮城県)
- 253 人気なき枝垂桜の浄土かな
大阿久雅子(埼玉県)
- 254 残り鴨ひよいと首出す笹の中
石井美智子(埼玉県)
- 255 首宿重きリズムの牛の足
中高純子(新潟県)
- 256 花束の重きをかかえ春卒寿
小林紀美子(東京都)
- 257 風薫交番朝の引継ぎ中
服部八重子(東京都)
- 258 身のどこかさざぎ波立てり花衣
環順子(東京都)
- 259 ひたむきに生きて今日見る櫻かな
鈴木清子(埼玉県)
- 260 もたつきのジグソーパズル戻り梅雨
榎本嵯督有(大阪府)
- 261 先々で出会ふもてなし春の町
邑橋節夫(兵庫県)
- 262 青空の傾斜に色なす芝桜
長谷部喜代子(大阪府)
- 263 病院の桜二度見て逝きにけり
中山日出子(大阪府)
- 264 海吠ゆるるときを忘れじ花万朵
浅野信廣(宮城県)
- 265 マネキンの早やニード日脚伸ぶ
鏡たか子(山形県)
- 266 初産の近き菜の花月夜かな
岡村君枝(茨城県)
- 267 あきらかに男の精気青風
吉田未灰(群馬県)
- 268 スランプと言われる作句花霞
星一子(神奈川県)
- 269 屈み込み撮る片栗の花静か
山岸伊久雄(東京都)
- 270 水上バス岸の桜に旋回す
倉田淑子(東京都)
- 271 しなやかに孔雀の扇ぐ花の舞
岡野智恵子(埼玉県)
- 272 夏どなり外人の笑みの鳩居堂
黒岩正子(埼玉県)
- 273 両の手で掬いとりたし花吹雪
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 274 ビスケット猫と領けあひうらけし
堀井醉人(茨城県)
- 275 喚声のホールインワン花吹雪
芋木匡子(滋賀県)
- 276 穏やかな空にすみれも背伸びして
木村舩(山形県)
- 277 下萌てまだ動かざるつちのくれ
井上氣海(広島県)
- 278 出征に涙する妣春の夢
菅井文男(新潟県)
- 279 桜しべ古人の声となり
高垣勝代(大阪府)
- 280 日向ぼこ昔を語り出すふたり
坂元正憲(東京都)
- 281 千手みな虚空をつかむ花辛夷
西川孝子(奈良県)

- 282 春爛漫危険な橋を渡り切る
早乙女文子(埼玉県)
- 283 教科書に名札を添えて入学児
高杉杜詩花(北海道)
- 284 椿咲く樹齢重ねし幹うねり
勝田久美(大阪府)
- 285 雁のようCA一列に搭乗す
浦橋渴雪(兵庫県)
- 286 大藤の緞帳めける咲きつぶり
小林七重(新潟県)
- 287 葉櫻や行きつもどりつ尾長一群
森俊彦(神奈川県)
- 288 生業の戻らぬ村や辛夷咲く
鈴木与平(宮城県)
- 289 花の下歓声あがるホールインワン
高橋まさ子(宮城県)
- 290 紀の国はどの山見ても山桜
永井俊樹(兵庫県)
- 291 冤罪の四十八年亀鳴きぬ
富高くにひろ(埼玉県)
- 292 同じ名の句友迎ふる花筵
小山羊子(新潟県)
- 293 怪我をして己の馬鹿を知る四月
道給一恵(埼玉県)
- 294 取り合つて帰るふると花曇
山崎鶴恵(鹿児島県)
- 295 朧夜やかぐや姫より電話来る
梶鴻風(北海道)
- 296 行く春を静かに語る老夫婦
石川郁子(埼玉県)
- 297 山独活の香りみなぎる妣の膳
田野井一夫(栃木県)
- 298 風薫る過ぎし記憶はセピア色
中野豊彦(東京都)
- 299 蒲公英の群咲く花は外の種
中村和弘(愛知県)
- 300 除染調査桃梨りんご彩ふ郷
佐藤正子(福島県)

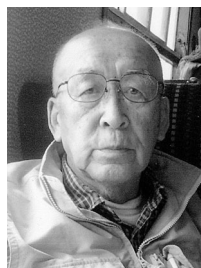
4月号の 心に残った作品

「投稿作品で心に残ったものは？」の問いに、たくさんのお返答をお寄せ頂きありがとうございました！その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。

◎川柳部門

41 子供より親を教育したい国

森恒雄(愛知県)



森恒雄様

・同感です。「親の背中を見て子は育つ」な傾向あり 西條公雄(埼玉県)・自分本位に考える親の多いことか。そんな親に育てた私も反省しています(教員だったので) 久本にい地(岡山県)・最近の世相で親の顔を見たいと思わせる事件が多すぎる 近藤富夫(東京都)・『道徳教育』の重要性を痛感しています 阿部澄江(宮城県)・自分勝手な親が多い。子供は本来は純心である 福地義雄(沖縄県) 他

【自句自解】

最近の世相を見ると一強政党による横暴極まる政治である。ヒナ壇に座る人は大半が世襲議員で親から引継いだ利権をふりまわしている。このような背景を考えた時、利権の継承者が一族であり苦勞を知らない坊ちゃんである。この坊ちゃん議員を育てたのは親であり同様のことを繰り返している。子は過保護で

育ち育てたのは親であり、そのとりまきである。可愛い子には旅をさせるとはよく言ったもので親よしっかりしろと言いたい。

◎俳句部門

125 みどり児のまあるい欠伸日脚伸ぶ

渡辺嘉幸(東京都)



渡辺嘉幸様

・みどり児のかわいらしさがよく詠まれている 水落重式(新潟県)・入園式から帰った孫(三歳)が緊張の疲れで眠くなり、この句と同じ欠伸をしました 井上静夫(栃木県)・まあるい欠伸。みどり児の情景をよくみている 田島星景子(宮城県)・日向ぼっこでもして眠くなったのでしょうか。まあるい欠伸がとてかわいく思わず想像して楽しんでいました 大内泰子(東京都)・ぶくぶくした頬。すくすくと育っているほほえましい感じが伝わってきます 浅野信廣(宮城県)・まあるいあくびの把握が見事だ 吉田末灰(群馬県) 他

【自句自解】

昨年久しぶりに孫が生まれました。乳をたつぷり飲んで、よく眠り、まだ片言だけの女の子です。その児が欠伸をすると、本当に真ん丸い口元になり、一層可愛いくなります。神様の下された贈り物として、これからも大切に守つていくつもりです。

この度戴いた皆様方のご厚情に深く感謝申し上げます。

◎短歌部門

281 春待たず旅立つ君にたむけたき梅の ひと枝いまほころびぬ

岩崎令子(大阪府)



岩崎令子様

・今年の冬一月二月は寒かった。大雪で梅も咲かなかつた。こんな時に友人を失った人の心が見える 青木日出男(群馬県)・昨年一月二十日に弟を亡くしました。その気持ちに実によく分ります 下山信行(群馬県)・私自身昨年夏に大病をして来年の梅の花は見られるかな…。などどふと思つてしまいました 出井静枝(三重県)・亡き方への愛と逢えない悲しみがひしひしと伝わってきます 音喜多千津子(埼玉県)

【自句自解】

年を重ね、友人知人を見送る事が多い昨今ですが、二月初旬、埼玉の姪が四十五才の若さで亡くなり、突然の訃報に驚きました。発病して半年、家族で看守り快方に向つた矢先の事とか、機内乗務で元気に活躍し、周囲の人望も厚く愛されていたと云うエピソードを聞くにつけても、その早い死が悔まれます。遠方で日頃は疎遠でしたが、咲き始めた梅を見て馥郁たる香の一枝を供えてあげたいと思う早春の悲しい出来事でした。

《川柳》

44 荒波もさざ波もある夫婦舟

三宅得三(新潟県)

・結婚40年になると同感 山本恵子(新

潟県)・何だかとてもいやされる句に出会いました 井上美恵子(愛媛県)・身につまされます 関本守(新潟県)・人生73年荒波にも難破せず大海に出たが小港にて停泊、寄り添っている 鈴木満明(東京都)・益々その感が深まりました 山崎一嘉(愛媛県)・人生そのままの妙味を示す 森俊彦(神奈川県)・老いてもなぜかウキウキする 竹村穂夫(大阪府)

《俳句》

77 家族みな天に捧げし春彼岸

阿部澄江(宮城県)

・淋しいでしょうが：頑張つて!!いい句が出来ましたね 佐瀬千恵(神奈川県)

・「みな天に捧げし」淡々とした表現の中に作者の深い悲しみが込められている

鮫島茂利(兵庫県)・3月21日兄を

なくしたばかりですので天に捧げし

よかつた 中野勝子(鹿児島県)・家族

全員が天に召されるのではなく捧げたと

したところに甚く感動 吉村充治(埼玉

県)・天に捧げしが射的を射ている。私も

兄、母を亡くしました 貝沼とし子(愛

知県)・家族を失った悲しみが痛い程感

じられる 山岸伊久雄(東京都)・これ

からは明るく生きて行こうとする決心

が感じられ心を打たれました 岡野智

恵子(埼玉県)

81 天井の津波の跡や夏つばめ

浅野信廣(宮城県)

・絶望の爪跡と同じ位の高さのいのちが

やってくる。淡々といのちのよるこびをう

たっている 安部哲(新潟県)・津波に

おそわれてもつばめは古巣を忘れず戻っ

て来る事に感銘しました 関原幸子(東

京都)・津波の被害から立ち直り希望

を持って生きている住民の力強さがすば

らしい 小山たけし(埼玉県)・東日本震災の津波がどんなに恐ろしいかがよく分る句です 鈴木与平(宮城県)・夏つばめが元の巣に帰つて来ているのに家族が避難先から帰宅できないと詠んだ句 永井俊樹(兵庫県)・燕が災害後も元氣や勇気を運んできたのです。頑張つて下さい 中野豊彦(東京都)

《短歌》

287 歳重ね老いには老いの意地もあり疎

まれようが我が道を行く

野木宗信(奈良県)

・全くそうです。老いには老いの意地もありが

んばつています 林玉子(長野県)・ほどほどにした方も良いかも 田

中豊恵(新潟県)・新築し若者との生活

共に思う事。身にしみて感じました

大鳥居牧子(東京都)・結句がストレス

のない生活を持つことが大切と教えてい

る 小俣はる江(山梨県)

《他にも》

5 あのナース熟女に変わる更衣室

山崎一嘉(愛媛県)

32 本当のトシで入院しています

山口千鶴子(東京都)

96 八十は大きな峠草青む

阿部至(埼玉県)

194 春泥や跨ぐか跳ぶか八十路坂

布目雅之(東京都)

203 制服の丈の余りて入学す

若月理依子(新潟県)

270 官兵衛を思いのままに語りゆく史家の筆致や吟醸のごと

篠原三郎(静岡県)

277 切干しのおいほのかなふるさとの荷物のひもを切らずほどけり

藤原昭三(滋賀県)

※今後もふるつてご投稿をお願いいたします!

新潟ぶらり

★日本海タワー



新潟砂丘の上、海を見おろす高台に建つ展望台である。ちよつとユニークなのは、新潟市水道局の配水池・南山配水池の屋上に設置されているという点。

昭和四十五年、当時めずらしかつた展望施設で人を集め、水道事業のPRを行う目的で配水池の屋上に建設された、というのが経緯。貯水タンクは上下二層に分けて設けられており、建設当時は日本初の階層式配水池として注目を集めたという。エレベーターと階段を使って、展望部に登る。大量の水を湛えているからか、途中の階段や廊下はひんやりと冷たい。展望部の海拔は六十三メートル。

回転式のため、円の外側の部分に設けられている椅子に座ると、窓の外景色が流れていく。小学校でボールを追いかける子どもたちの姿、穏やかな家並み。繁華街のビルが日の光をさらにまぶしく見せる。海沿いに走る防風林、日本海、その先には佐渡も。ゆつくり、ゆつくり、流れていく。

なんともいい場所だったのだが、他の高層建築物が開業し入場者が減少したこと、さらに設備の老朽化も加わり、当タワーの営業は二〇一四年六月末日で終了することが発表された。展望喫茶コーナーのクリームソーダが、もう懐かしい。

新潟の初夏はよろしや佐渡も見え

高浜虚子

(菅真理子)



展望部は全面ガラス張りで360度みわたすことができる。約25分で1回転。

住/新潟市中央区旭町通2-5229-18
電/025-2229-0020
営業時間/9時~17時(毎週木曜休館)
入場料/平成26年6月30日の営業終了まで無料。

前回のアンケート

Q 今、特に気に入っている食べ物は何ですか？
紙幅の関係上、すべてのお答えを掲載できませんことをお詫び申し上げます。



☆春のもの

- ・独活の甘酢漬 野村牟人(東京都)
- ・焼き筍です。何とも言えぬ美味、皮にうめぼしを入れ噛むのもいいなア。 増島淳隆(東京都)
- ・菜花です。色合い、香り、味とも大好物。 小林七重(新潟県)
- ・あざみの味噌汁 下坂池峰(秋田県)
- ・タラやアブラナ(コシアブラ)の芽のてんぷら。 邑橋節夫(兵庫県)
- ・山うど。皮はキンピラに、柔らかいせは酢みそをつけて。 仁藤ひろじ(埼玉県)

☆アボカド

- ・一度に一ケ食べたいところですがカロリーを考えて半分でがまんしてます。 青木涼子(埼玉県)
 - ・疲れを感じたらハチミツを添えて食べます。 塩崎須美子(神奈川県)他
- ☆春キャベツ
- ・生でよし、ボイルよし、一夜漬又よし。 小山羊子(新潟県)
 - ・サクサク刻んで塩を少々。

・家庭菜園で無農薬で作っています。

- ・「自然の胃腸薬」として、一日一食欠かさずに。 小澤円梨(静岡県)
- 中村康浩(福岡県)他

☆トマト

- ・島で挽ぎ冷水に浸し、少し青くさいのが懐かしい。 千代田俳徒(東京都)
- ・毎日一口食べています。 松尾正一(岩手県)他

☆新玉葱

- ・新玉ネギをスライスしてゆず、こぶ、ぼん酢をかけて毎日ハマっています。

☆そのほかの野菜

- ・きゅうり。かじってよし刻んでもよし。 松田登義(福岡県)
- ・グリーンアスパラ。茹でてよし、ベーコン巻やバターソテーが最高です！ 高崎登喜子(東京都)
- ・ゴーヤ。市へ申し込めば日除けとして苗がもらえます。 久保和友(滋賀県)
- ・ごぼうのさくさく揚げ 北村純一(神奈川県)
- ・セロリの浅漬け 松尾らん(東京都)
- ・肉味噌でセロリを食べること。 寺内佑(埼玉県)

☆パプリカ

- ・ロマネスコ 萬濃その子(神奈川県)
- ・ワケギのネギヌタおいしいですよ。 杉原明子(静岡県)

- ・温野菜。カボチャ人参何んでも蒸して食べます。 濱崎祥子(鹿児島県)
- ・大根の煮物、大根おろし。 鈴木満明(東京都)

・豆苗。

山本直子(大阪府)

・自分で作っている「シラ」ですね。

- 大塚正路(福島県)
- ・黒豆もやしやしやしやしやしやし。 堅田秀子(東京都)
- ・春菊のゴマあえです。 三津木俊幸(千葉県)他

☆サラダ

- ・ハーブの一種にルッコラがあります。朝のサラダに取り入れています。 中村和弘(愛知県)
- ・生野菜のサラダ。特にレタス。 大谷茂(埼玉県)
- ・トマトとレタス・ジャガイモ・ワカメ。単品でもドレッシングであえるだけ。 勝田久美(大阪府)他

☆漬物

- ・春キャベツ、ニンジン、塩わかめの浅漬 伊藤敬子(宮城県)
- ・「ごちそうさん」で糠漬を知りカブやニンジンの糠漬にハマっています。 水落重式(新潟県)
- ・芥子菜のつけもの。 奥田音野(香川県)
- ・宮崎産の大根菜(若菜)の漬け物。こげうめえじんだ、まこち、たまらん。 渡辺綱纒(宮城県)

☆海の幸

- ・妻自家製(小生が育てた野菜)の「糠漬け」です。 山岸伊久雄(東京都)他
- ・鰹に限らずこの季節は魚介類が美味です。 藤沢健二(千葉県)
- ・カツオのたたきとホタルイカ。 若月理依子(新潟県)
- ・ししゃものみりん干です。 井川英子(大阪府)

・かき

今井岩夫(千葉県)

・秋刀魚の鰯。 加用章勝(千葉県)

- ・焼津港にあがる「かつを」のさしみ 渡邊碧海(静岡県)
- ・締め鯖と少々純米酒 北野耕兵(千葉県)
- ・海鞘 田島星景子(宮城県)
- ・ブリの頭のアラ煮 有働茂治(熊本県)他

☆あさり

- ・三河湾の特産 天野マヌミ(愛知県)
- ・アサリのみそ汁 寺井清(新潟県)他

☆そば

- ・「鯨蕎麦」は毎日でも食べたいもの。 奥那於子(大阪府)
- ・酒をのみながらの「ざるそば」 中嶋秀次郎(埼玉県)
- ・沖繩そば 福地義雄(沖縄県)
- ・日本そば 小野寺裕子(宮城県)
- ・長野と山形の違いの味が楽しみです。 小笠原紗恵子(神奈川県)
- ・そばがき。とろりとろりの舌触り 阿部至(埼玉県)

・特に新潟県十日町のひが蕎麦。幼い頃父母が打った手打ち蕎麦の素朴な味が忘れられない。 村山徳英(埼玉県)

・駅の「かきあげソバ」(早くてうまい) 齊藤安弘(神奈川県)他

☆うどん

- ・鴨つけうどんにはまっています。 鈴木智子(千葉県)
- ・カレーうどん 小暮昭司(群馬県)
- ・なべ焼きうどんです。 大江秋月(兵庫県)他

☆パン

・パンのみみ。 関口美智江(新潟県)

A Q U E S T I O N N A I R E

・フランスパン。細川光子(栃木県)
・パン嫌いだっただのだから毎朝食パンを食べています。

大岩歌子(岡山県)他

☆ごぼん

・葱ごぼん。小口に切った葱にいわしけずりと醤油をかけて温かい白いごはん。木村貞恵(静岡県)

・炊き込み御飯。中山日出子(大阪府)

・麦をいれたご飯。

小俣はる江(山梨県)他

☆カレーライス

・辛口が良い。福神漬けのナタ豆を選ったりラッキョを添えて美味。

・定番で失礼します。カレーライス

居原田連星(大阪府)

篠原三郎(静岡県)他

☆肉料理

・ジンギスカンの食べくらべにはまっています。梶鴻風(北海道)

・やっぱ豚肉は大切とか。トンカツは好物です。鈴木蝶次(宮城県)他

☆辛い物

・キムチと辛子めんにハマってます。稲葉民雄(千葉県)

・辛子明太。岡野智恵子(埼玉県)

☆豆

・うすいえんどう(卵とじ、豆ごぼん、何でも大好き)

・圧力鍋で蒸した大豆。栗のような味で美味しい。坂山陽康(滋賀県)他

☆ヨーグルト

・プレーンヨーグルト+黒豆きな粉+バナナの組合せです。

・ホイップすると大変おいしいですよ。

木村誠一(神奈川県)

関根千恵(埼玉県)

・お菓子作りやサラダに入れたりして毎日食べています。

星井千恵子(埼玉県)

☆特産品、郷土料理

・郷土の特産品、「串あさり」と「フキ」です。竹内進(愛知県)

・茨城の地魚、平目これからは鰹、茨城の納豆。國分貴博(茨城県)

・山形県米沢地方の定番、冷汁。木村鮎(山形県)

・高速の岡山SAで買った田舎ようかん。石神紅雀(鹿児島県)

・桜餅。句作の間の一個が香りよく美味です。永井俊樹(兵庫県)

・グミキャンデーの新製品。岡本恵(茨城県)

・手作りのかき餅に塩をふつたのが一番です。桑原謙一(群馬県)

・草餅。野中よしみ(神奈川県)

・煎餅(濃い口焼の)。石尾曠師朗(東京都)

・ブラックのチョコレート。増本和子(大阪府)他

・「しらぬい」が美味しい。池田岬(埼玉県)

・でこぼん。津布久信雄(東京都)

・宇和島の清見。佐瀬千恵(神奈川県)

・イスラエル産のマンダリン(オア)味がとても良い。福田和子(東京都)

・甘夏。長峰正晴(千葉県)

・二十五才になった初孫の記念樹に毎年百個の早夏かんが出来ます。

芋木匡子(滋賀県)

・八朔、最近すっぱいものがおいしくて?! 中林恵子(大阪府)

・文旦。金子範子(高知県)他

☆そのほかの果物

・三度の食事後に必ず旬の果物

・いちご。ビタミンCたっぷり。

・生のパインです。気分がすっきりしい時など食べて気分転換、明日へ出発です。佐藤正子(福島県)

・バナナ。安くて栄養が沢山あるから。鈴木与平(宮城県)他

・ところてん。大場きよし(宮城県)

・国産のウナギ。阿部徳夫(宮城県)

・ミルクに蜂蜜、摺り胡麻、黄粉、それに胡桃、アーモンドの粉末状のものを入れたもの。近藤薫也(千葉県)

・故郷(熊本)の西瓜。福岡悟(東京都)

・インスタントのカレーうどん。吉村充治(埼玉県)

・ギョーザとお好み焼き。具に工夫しながら。奈倉楽甫(愛知県)

・ギョーザ。魚のすり身を入れる。美味ですよ。堀井酔人(茨城県)

・揚げ、豆腐類。

・根ワサビ。河越正行(神奈川県)

・お浸し。田中豊恵(新潟県)

・ココナツ油です。中野豊彦(東京都)

・はちみつ(低カロリー栄養が高い)と、オイスターソース(味付けが美味しくなる)です。小山恵美子(大阪府)

・そうめんのつけ汁に少量のマヨネーズを入れる。寒川靖子(香川県)

・チーズとオリーブオイル。嶋田征次(東京都)

・めざし鱒にぞつこんです。関本守(新潟県)

・鴨鍋。竹村穂夫(大阪府)

・桜の花びらにはちみつをちよこつとつけて一日5枚口にしてます。

・参宮あわび。清水英雄(東京都)

・四個百二十円ばかりのチーズ、色々な味がありメンタイ味、ゴマ味：はまっています。藤橋一葉(新潟県)

・自家製のチキンハム。永年燻製作り研究の成果とも云うべき我家の逸品です。長野光康(神奈川県)

・手作りゴマ豆腐。渡邊美枝子(山梨県)

・食べるいりこ：フライパンで焼いてビンに入れ毎朝10匹食べる。水川聖子(埼玉県)

・生揚げ(厚揚げ)。竹田栄(東京都)

・大山や忍野の冷奴。古谷力(東京都)

・天津飯の旨い店を探しています。高柳閑雲(愛知県)

・特製「みつ葉スープ」。鈴木岑夫(千葉県)

・柚子と蜂蜜で作った柚子ジャムや柚子茶。関原幸子(東京都)

①レモン一個紅茶にハチミツを入れて。

②(しょうが湯)朝夕二杯ずつ。内河邦久(東京都)

・「わかめ」を頂き、思い切りわかめを使っています。井上美恵子(愛媛県)

・ホットケーキ。小西忠夫(鳥取県)

・長芋を大き目に「スライス」してけずりぶしと、めんつゆをかけて食う。

黒澤正行(福島県)他

●お客様の『リレーエッセイ』

私流ボケ防止考

河野静子

(埼玉県・新座市)

近頃の私の日常茶飯事、忘れた!ということの繰り返し、ナントカこれに歯止めを利かせよう。私なりに工夫して面白がり楽しもう。

昭和ひと桁育ちは子育ての頃、大凡の人は手作りが当然の日常だったように思う。むしろ着せるのを楽しみにしていた。今で言うリフォームでしょうか。自分のスカートを解いて女の子のワンピースとパンツに仕立直したり、上の男の子にはほどいた毛糸を湯のしにしてこれはお兄ちゃんのセーターになるのよと話しながら、両腕にかけ、くるくると巻いたり。

思い出しながら「これだ!」と思った。ボケ防止に生かせると思わず膝を打った。

* * *

編みかけのセーターが出てきた。多分すぐ飽きるくせが出てそのままになっていたのであろう。

なんとかしなくちゃ、これは両方の袖を編めば出来る。ヨロシやりましょう。こうなると占めたもの、私は凝り性でもある。編み目を拾って編み進めば面白いじゃない、と指を動かすが思うようにいかない。ボケ防止にはこれが「チャンス!」と、自分で言っ編み方のハウトウを復習。これでヤル気充分、かつて一目惚れで買ってしまった毛糸を折り合いよくイメージして編み始めた。イメージがはっきりしているので、手がついてくるのではないか。もともと気

に入ったものだからイヤではない。せつせと編む、肩なんか凝らない。

枕もとに仕上ったセーターをたたみ、明日はこれを着るうれしさで眠りについた。

* * *

もうすぐ夏。「古い上着よ、サヨナラ」と、「青い山脈」の鼻歌まじりでご機嫌になる。今の私に合う服を作ろう。イメージが湧いてきた。こうなるとわくわくする。一着仕上げたらパツと着てみて気に入ったら、パツと若やいで、出かけよう。浅草もいいじゃない。池袋から雷門へバスも出ているし、お洒落はいくつになっても大切な自己表現という。

私は今まで箆笥の中の服を着まわしていた。お洒落とはほど遠い。娘はそういう私を見かねたのだろうか、去年の夏、私にワンピースを仕立ててくれた。これがヒントになっているかしら、いっぞや娘と二人、ドイツで着分を求めていたのを仕舞い込んでいた。夢のあるさわやかで、ピンクと水色の花柄、これも又仕舞い込もうとしていた。

五月晴れ。気分を変えて外出しよう。心が弾んできた。布撰びに先ずは出掛けよう。吉祥寺行きのバスに乗ろう。店に着いたら、ためらわず気に入った柄を手取る。すでに具体的に動き始めている。



滋味しみじみ

鯛ずし



小井寒九郎様 (三重県・四日市市)

鯛ずしと言う店が国道一号線西側に在りました。入って行くと「いらっしゃい!!」との元気な声。「鯛一貫」と言うと水槽に泳いでいる鯛をたもですくい取り、目の前でしめます。紫が出、わさびを少し付けて食べる。こりこりとして甘いのです。カレーとか、かわはぎを次に頼みます。「はい、御待ち!!」そして、ネタを下にして食べる。鯛の吸い物を呑み、酒を酌みます。ほおんわりと酔って来ます。次に鯖を一貫、鱈を一貫、夜は更けていきます。シャリも食べます。店を出ると、あがりの味にすしの味が残ります。ネオン街を歩いて家に帰ります。路々の車のライト。交差点を渡り、よろよろと歩きます。腹の中で魚達が踊ります。「ただいま!!」母は又「たい屋か!?!」と言います。長兄の湯の後、湯に入ります。温いと感じます。床に入ると、もう午前0時。酒の勢いで、すぐ眠りに入ります。おやすみなさい。

●食に関するミニエッセイ「滋味しみじみ」の原稿を募集しています。400～500字の原稿をP16下記の宛先に封書かメールにてお送りください。勝手ながら採用の可否については、弊社に一任させていただきます。おいしいお話、大歓迎です!!

第5回良寛・国上寺全国俳句大会

新潟県燕市にある国上寺は、良寛が47歳から約13年間の最盛期を過ごした草庵「五合庵」のあるお寺です。この国上寺にて第5回良寛・国上寺全国俳句大会が開催されます。事前に作品を応募のうえ、秋の実りを迎える時期に、良寛の心に触れに越後平野まで足をのびせてみませんか。

■作品募集 当季雑詠 2句1組 (未発表作品) 1000円
締切/平成26年7月31日(木)

■俳句大会/平成26年9月23日(火) 午前10時受付開始
大会投句/囁目2句 (選者 中原道夫)

〔お問い合わせ〕国上寺・五合庵

〒959-0136 新潟県燕市国上1407 ☎0256-97-3758

せいげつ

井月俳句大会

幕末の越後に生まれ、1887年に没するまでの約30年間を信州の伊那谷を放浪しながら多くの名句を詠んだ漂白の俳人、井上井月。氏を顕彰する俳句大会が「井月さんまつり」と同時開催されます。

■俳句大会/平成26年8月30日(土) ※事前投句は5月末で締切
伊那市生涯学習センター「いなっせ」6階 伊那市荒井 3500-1
☎0265-78-5801 午前9時～12時30分当日句受付
当日吟行句 3句500円 他、表彰式・講演会・懇親会等

ポストカード好評発売中! 毎回ご好評いただいている当社のオリジナルポストカード(1組8枚入り500円×各季節)。今回は夏バージョンを同封いたしました。お気に召されましたら、同封のアンケート用紙にご希望の季節、セット数を明記のうえ、必要金額分の切手を同封のうえ封書にてお申し込みください。

「ご縁ブック2014」「2015年手帖」

次回8月号で「ご縁ブック2014」「2015年手帖」のご案内を予定しております。ぜひ、お見逃しなく!!

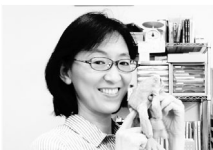


本を作る際に参考になる **見本を無料**でお送りしています。
◀百聞は一見にしかず! お気軽にお問い合わせください。

スタッフの一言

Q. 今、特に気に入っている食べ物は何ですか? ※蛙のぬいぐるみとともに…

木戸敦子



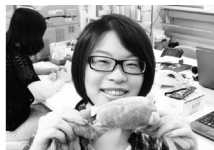
不可欠なもの、それはシンに茗荷に生姜にパクチー等の薬味。どんな料理もパクチーを入れれば気分は南国へひとっ飛び。先日K・Yが畑にパクチーを植えたとか。今から楽しみにしてまーす♥

古川久美子



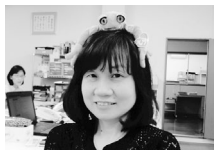
ハマっている、というか、夏になるとスターバックスのアイスコーヒーにオレンジの風味をつけられるようになるので、どうしても飲んでしまう。今は、コーヒージェリーフラベチーノを待っている。

菅真理子



セロリの塩麹漬。スモークチーズ。小魚アーモンド。生ハムもこの間までブームでした。気付けばおつまみばかり。塩分の摂りすぎに注意しなければいけない。

山田千秋



かわわれ大根。1パック37円で、サラダ、味噌汁、炒め物、おひたしに、お蕎麦の薬味にも、大活躍です。苦味とハート型の葉っぱもお気に入りポイントです。

木伏美恵



青しそとゴーヤ。青しそはお漬物や、酢飯に白ごまと混ぜ納豆をのせて朝ごはんに食べると食がすすむ。ゴーヤは軽く茹でて、めんつゆに漬けるだけ。

上村真智子



ある居酒屋でベーコンとしめじと蕪の茎を炒めたものを食べて感動!! 家でもつくってみた、塩こしょうで軽く味付けするだけでベーコンのうま味が蕪に移り、美味! ビールが進みま〜す!!

金子ゆり子



今に始まったことではないのですが、たこ焼きです。美味しいたこ焼きに当たった時はラッキーです。以前、旅行に行ったときに立ち寄った高速のパーキングで食べたたこ焼きをもう一度食べたい。

石山由希子



昭和的(?)菓子パンです。あんパンをはじめ、チョコパン(含チョココロネ)、メロンパン、クリームパン、ジャムパンなど。ピーナツクリームもたままりません。

吉田瞳



K社の本搾りオレンジチューハイです♡オレンジの風味かつ酸味がさっぱりと喉を潤してくれ、一口飲むと思わず笑みがこぼれてしまいます! 右の娘は酒のつまみ=パイ貝にはまっており、まさに酒呑み家系は親譲りかもしれません。



2歳10ヶ月です。パイ貝はクルッとじょうずにとりまよ。



退職、そして退園のこと

樋口智子

人気の樋口さんのエッセイも、あつという間に今回が最後となりました。家族それぞれに新しいスタートですね。次回8月号からの執筆者は、樋口さんいわく「歌人としても母としても、ステキな先輩です」という、「リカ先生の夏」(角川書店)で、第11回(2005年)日本歌人クラブ新人賞を受賞された歌人です。

今年に入って、我が家には大きな出来事がありました。三人目の子が生まれたということ。それに伴い、私が勤めを辞めたこと。そのために、上の子たちが保育園を退園せざるを得なくなり、四歳の長男は幼稚園、まだ二歳の長女は家で過ごすことになりました。それぞれに、新たな一歩を踏み出した春です。

昨夏のある日、かつて一緒に働いていた先輩から電話がありました。転職する気はないか、一緒に働かないか、という話でした。気心の知れた間柄で、条件も今よりもよい職場です。慣れ親しんだ今の職場から離れてみてもよいかと思わせるものでした。しかし、です。人生とは不思議なもの、予測不能なものです。その数日前から、もしかしたら妊娠してゐるのではないかと、という疑念がありました。次の日、検査薬で調べると陽性。転職の話は、もちろん辞退です。けれども、転職の話があったことで、この先もどこかで働くことは出来るだろうし、いずれにしろ今の職場を去るタイミングなのだろうと、約十七年勤めた職場を退職することにしました。あの電話の日を境に、人生が大きく舵を切っていくのがわかった。・・・そんな、はつきりとした感覚は初めてのことでした。

二人目の子が生まれて、産休と育休を経ての復職後は、本当に目まぐるしい日々でした。職場が少し遠かったせいもありましたが、毎朝七時前に家を出て、夕方は六時ぎりぎり。冬は延長保育になって、夜七時近くまで保育園に預けていま

した。家で、子どもたちが起きている時間はほんの二、三時間。ご飯を食べさせ、お風呂に入れて寝かしつけ。・・・それで、ほぼ時間いっぱいです。子どもが寝たら、大人の御飯支度をし、洗濯を干し、保育園への連絡帳を記入する。働いている時間の、「お母さんではない自分」の清々しさがある一方で、ああ、どこかで一度立ち止まって、ゆつくり考えたい。・・・でも、止まったら、この激流にあつという間に流されてしまいがち。・・・そう思う毎日でした。三人目の妊娠がわかって、この流れから降りることを決めた時、実は少しほっとしたようなところもありました。子どもたちが小さい間の、ほんの数年の忙しさだと頭ではわかかっていても、すでに心身疲れきっていたのです。

今日で、娘は保育園を退園します。働いている間は、一緒にいれなくてごめんねと思っていました。いざ退園するとなると、私も寂しい気持ちでいっぱいです。子どもの遠足を忘れてたり、先生に「今日、おむつ履いてなかったよ(笑)」と言われたり、数々おつちよこちよいをやりました。今日は最後に、保育園に忘れ物をしてこないようにしないと。・・・

明日からは、母子ともども、また新たなスタートです！
抱われて朱い一尾はゆうらゆら まだ人生を手に入れてない

里見佳保

2014. 6. vol.74 (2014年6月10日発行/隔月発行)
●発行・印刷/株式会社ミュージズ・コーポレーション
〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29
喜怒哀楽書房 TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
株式会社ミュージズ・コーポレーション 0120-819-395
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com
郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社 ミュージズ・コーポレーション

編集後記

友人が乞われて選挙に出ることを決めた。車をぶつけるほど散々悩んで出した答えはイエス。「どう思う？」と聞かれた時は、そういうタイプじゃないので直感的に「止めた方がいい」と言った。大変なことは百も承知。でも結局は自分の人生だ。彼女なら、新しい議員のモデルを作り出してくれるのでは？と今は期待すらする。順不同だが、みんないずれこの世からいなくなる。「葉っぱのフレディ」ではないが、少しでも自分の「人間としての仕事」を全うできたなら、と願う。それも楽しみながら。5月にまた一つ歳を重ね、何だかそれらしきことを言おうとしている自分に「やーね」と舌を出したくなる。(木戸敦子)